



クリニカルクエスチョンとは何ですか？



診療ガイドラインで答えるべき疑問の構成要素を抽出し、ひとつの疑問文で表現したもの。

クリニカルクエスチョンでは、重要臨床課題（取り上げる疾患の検査や治療における重要なトピック）を取り上げます。たとえば、新たな臨床研究によってよりよい診療の選択肢の可能性が示された場合や、長年の慣行によって複数の診療の選択肢が並存している場合など、選択肢が複数あり、いずれが最適な選択肢となるか判断が求められる場合がこれにあたります。

取り上げる重要臨床課題が決まったら、その内容を4つの構成要素で整理します。

構成要素は、Patients（対象：治療の対象となる患者の特性や範囲）、Interventions（介入：検討したい医療行為）、Comparison, Comparators（対照：比較対照となる医療行為）、Outcomes（アウトカム：医療行為によって患者に生じうる結果）です。これらの頭文字をとって「PICO」、「ピコ」と呼ばれています。アウトカムには、生存期間の延長などの益（効果など）のみでなく、医療行為によってもたらされる害（副作用など）も含まれます。

PICOが決まったら、一つの疑問文で表現します。これをクリニカルクエスチョンと呼びます。「患者Pに対して、医療行為Iと医療行為Cのどちらを行うことが推奨されるか？」という形が一般的です。

このように、診療上の重要な課題（重要臨床課題）に対して立てられたクリニカルクエスチョンに対して、エビデンス（科学的根拠）などに基づいて、回答となる推奨を作成していきます。診療ガイドラインには、このクリニカルクエスチョンと推奨がセットになって示されています。

